

青嶺

Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

最後まで全力！ 駅伝ロードレース

まだ残暑が厳しい九月二七日、夢みさき公園周辺の駅伝コースで、伊万里・西松浦地区中学校駅伝競走大会が行われました。

夏の厳しい練習を耐え抜いた選手たちが、駅伝・ロードレースとそれぞれの場で、その成果を発揮しました。男子は全員3km、女子は3kmと2kmのコースを走ります。スタート前の緊張した面持ち、走っている最中の粘り、そしてゴール前で必死の走り…満足いく走りができた人もそうでない人もいると思いますが、終わった後の清々しい笑顔がとても印象に残りました。本当にお疲れ様！

選手が一番苦しい時に、校舎から聞こえた精一杯の応援の声、青嶺中が一体となった瞬間です。生徒たち全てに、関わった職員の全てに感謝します。

熱戦！ 北東部地区母親部 ドッジビー大会優勝！

十月六日(日)、大川コミュニティセンターで北東部地区PTA母親部主催のドッジビー大会が行われました。

青嶺中の他、地区内の小学校全7校で熱戦が繰り広げられました。一回戦の波多津小学校との同地区対決を制し、二回戦の南波多郷学館にも勝利、決勝の松浦小学校では全員を外野に押し出し完全勝利で優勝に輝きました。

皆さん本当に上手で、特に仲松先生の華麗な身のこなしには会場からは大きな歓声が上がりました。参加された保護者の皆様、先生方、応援の生徒の皆さん楽しい時間をありがとうございました。

また母親委員会の皆様には事前の準備から当日の大会の運営、また選手としても活躍されて本当にお疲れ様でした。青嶺中の団結を示すことができましたし、これからも生徒職員・保護者の皆さんと一緒に学校を盛り上げていきたいと思う一日でした！

バイク旅の危険⑤

ガス欠…私のバイクは大きいタンクでしたが、左右二つに分かれていて両方が満タンになったかどうか分かりづらい構造になっていました。

快調に走っていたある日、いきなりエンジンが止まり、最近満タンにしたばかりだったので故障したかとドキドキ。荷物を降ろし、エンジンを確認。シートとタンクを外し、電気系統を確認しましたが、何の異常もありません。

まさかとは思いましたが、ヒッチハイクしてガソリンを手に入れたタンクに入れました。セルモーターを回すと一発でかかり快調なエンジン音。結局は二つあるタンクの片一方だけしか給油できていなかったのです。

スタンドでその時の給油量が少なかったのに疑問を持つべきだったのです。たったそれだけのために3時間近くを要しました。ほんの少しの違和感を放っておいたための出来事で、ちょうど旅に出てひと月が過ぎ緊張感が欠けていた自分への戒めとなりました。

いずれにせよ、オートバイはタンク容量が少なく、航続距離は車より短いので、計画的に給油する必要があります。

また、疲れがたまるので休むことも重要。なんとかひどいけがや事故には遭いませんでしたが、同時期に旅をしていた人で不幸にも亡くなった方は一人ではありません。自分の幸運に感謝するとともにご冥福をお祈りします。

海外で働くこと

語学学校在学中、日本から持参したお金が足りなくなり、ワーキングホリデーで許可されている上限の十週間、アルバイトをすることにしました。

ストラスブールからシドニー方面は電車がたくさん出ていますが、バイトを募集しているお店は駅からは遠い場所が多く、逆の方面のパラマタからきていた求人が駅近だったためにそのレストランに決め面接に行きました。

レストラン「田舎」は駅のすぐ近くのモールにあり、支配人のチャックさん、板長の野田さん、料理人の清水さん、シドニー大学の学生のタニヤ、中国から来ているニーさん達と仕事しました。夜はレストラン、昼は壁が開いてオーブンキッチン、テイクアウトのお店になります。飲食店では働いたことがありませんでしたが、清水さんや野田さんから色々教えてもらい、揚げ物、テンプラの担当と

なりました。賄(まかない)飯を作ったり、照り焼きソースを仕込んだり、丸一羽の鶏を小さい包丁で分解したりと、少しづつ出来ることが増えていきました。

昼は近くのオフィスで働く人たちがお弁当を買いに来るので、オーブンキッチンにして接客しながら調理しお金のやり取りまでしていました。

サービスに満足したらお客さんがチップを置いて行ってくれます。今はワーキングホリデーの時間が非常に高いと聞いていますが、当時は時給5ドル(五百円)で、そこから税金が20%ひかれていました。チップは税金がかからないので、たくさんもらえると生活が楽になり有難かったです。「学ぶ」「働く」拠点だったストラスブール、大陸一周の出発点でありゴールでもありました。チョンと出会い、暮らした町。様々な出会いと別れがあり、数えきれない思い出を作った町。その出来事を反芻(そう)しながら幸せな気持ちを何度も味わいつつ、これからも生きていきます。

校長室より

季節はもうすっかり秋…と言いたいところですが、まだまだ日は暑いです。一年の折り返しということは、二年生は中学生生活の半分が過ぎたということ。時間が経つのはあっという間ですね。